

＜先週の説教から＞

『ルカ ②—神様はこんな石ころからでも』

武田真治牧師

詩編 33:12~22 ルカ福音書 3:7~14

前回、洗礼者ヨハネの活動について、旧約聖書のイザヤ書42章3~5節にある預言が成就したと当時の人々は考えていました。そこにある「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る」という言葉こそ、ヨハネが「主（＝イエス様）の道」を示す“伝道者”であり、悔い改めの洗礼を入口にして、その“主の道”を多くの人々が歩くことによって「でこぼこの道は平らになり」、更に多くの人々が歩きやすくなるということになるのだと。このヨハネのあり方や姿は、私たちキリスト者こそ見習い、学ぶべきところではないかと思えます。

7節からは、ヨハネの説教が記録されています。この説教の素晴らしさは「蝮の子らよ、悔い改めにふさわしい実を結べ」や「神はこんな石ころからでも」や「斧は既に木の根元に置かれている」等、まさにヨハネが居る荒野やヨルダン川で実際に足元にある物を“たとえ”に用いて、人々に語り掛けていることが分かります。故にたくさんの人々にヨハネの説教はアピールすることが出来たのでした。

そして、何よりのヨハネの素晴らしさは、その謙遜な姿勢でした。ヨハネの周囲にいた人々は「もしかしたら彼がメシア（救い主）ではないか」と考えていたのですが、彼自身は「わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなただちに洗礼をお授けになる」と語っていったのでした。周囲から特別な目で見られ、特別な人物だと崇められれば多くの者は有頂天になり、自分を誇るようになるものですが、ヨハネにはそんな所がなく、ひたすらキリストを宣べ伝えることに徹したのでした。その志に感動せざるを得ません。

この姿は単なる単なる表面的な謙遜ではなく、ヨハネ福音書では、彼の弟子たちがヨハネに対して「あなたが証しされたあの人（＝イエス様）が洗礼を受けています。みんながあの人の方へ行っています」と批判的につぶやく言葉を聞きながらも「花嫁を迎えるのは花婿だ。花嫁の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びに満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えなければならぬ。」とまで言われています。ここまでの自己分析とその態度には驚かされます。普段、自分のことを認めてくれない、もっと評価してほしいとばかり考えている私たちへの戒めでもあるように思います。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 9月11日(水) 20:00
II. 9月12日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙
祈祷主題: 敬老祝福を覚えて
担当者: (水) 鈴木 (木) 吉岡
祈りに覚える人: 小草さん 長村さん

【教勢報告】

主日礼拝 男16 女44 計60
祈祷会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女7 計8
日曜学校 幼稚科3 小中科10 計13

【次週主日礼拝】 9月15日(日)

聖書: イザヤ書 42:1~4
ルカによる福音書 3:18~22
説教: 「ルカ②—彼の上に神様の霊が置かれ」
武田真治牧師

讃美歌: 16(1)、32、355、521、430、90(1)

【次週当番表】

司式: 羽倉長老 奏楽: 中村 礼拝: 金刺長老
献金: 高橋 高村 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 木村 小杉 冨澤 長田
橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後: ・お茶の会・牧師と語る会・オリブの葉編集委員会
・日曜学校教師会・幼稚園理事会 ・バザー委員会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 9月 8日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>